

予 算 要 求 資 料

令和3年度9月補正予算 支出科目 款：警察費 項：警察活動費 目：一般警察活動費

事業名 **新** 業務の合理化推進事業費（DX）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

警察本部警務部警務課 電話番号：058-271-2424（内 2611）

E-mail：c18873@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,273千円（現計予算額： 0千円）

<財源内訳>

（千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	3,273	0	0	0	0	0	0	0	3,273
決 定 額									

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

コロナ情勢によって会議、研修会、各種講演の参加者が限定的になる中、参加者以外に対する情報共有を図るためには議事録の活用が有効である。

県警においては、DX・デジタル化による業務の効率化や県民サービスの向上を積極的に推進しているところであるが、会議・講義・講話等の記録の作成は、職員が手作業で対応しているのが現状である。

このような「単純作業」、「定型作業」にかかる負担を減らし、県民の安全・安心に直結する警察活動へのシフトを目指すとともに、事務作業の効率化、長時間労働の抑制等働き方改革を推進する。

（2）事業内容

業務の効率化を実現するため、AI議事録ツールを整備する。

（3）県負担・補助率の考え方

県警察の活動基盤に係るツールの整備であり、岐阜県デジタル・トランス

フォーメーション推進計画に資するものであることから、県負担が妥当である。

(4) 類似事業の有無

岐阜県におけるA I 議事録ツール整備事業

3 事業費の積算内訳

(千円)

事業内容	金額	事業内容の詳細
備品購入費	3,273	パソコン、集音装置、収納ラック一式
合計	3,273	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「県民に寄り添う強い岐阜県警察」確立プログラム

(2) 国・他県の状況

- ・ A I 議事録導入済み（導入決定含む） 7 県警察
- ・ A I 議事録導入検討中 9 都県警察

(3) 後年度の財政負担

ライセンス使用料等

(4) 事業主体及びその妥当性

業務の合理化を推進するため岐阜県警察職員が利用するものであり妥当である

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/>	新規要求事業
<input type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

令和3年度中にAI議事録ツールを整備して、会議録作成に係る業務の効率化を図り、削減した時間を県民の安全・安心に直結する警察活動に転換し、県民サービスの向上を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
		件	件	件		
	(R)	(R)	(R)	(R)	(R)	%
	(R)	(R)	(R)	(R)	(R)	%

○指標を設定することができない場合の理由

AI議事録ツールは、業務の効率化による県民サービス向上を目的としたもので、目標の達成度を示す指標の設定が困難である。

（前年度の取組）

（前年度の成果）

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体のデジタル化、先端技術の導入の潮流に沿ったものである一方、警察官の外部執行時間を確保することは県民の要望に沿うものであり必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・県警察において1機を導入し、警察本部が主催する多数の会議に使用するとともに、警察署が利用したい場合にもボイスレコーダー等の録音データによる活用が可能であり、効率性が図られる。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 重要度の高い会議や講話を優先的に利活用できる運用方法を検討する必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 捜査利用（証拠となる音声データのテキスト化）を念頭にセキュリティを検証し、機器の拡充を検討する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	